

## 第7回長浜市市民協働推進会議 概要

市民協働部市民活躍課

- I 日 時 令和元年12月11日(水)午後1時30分～午後3時35分  
II 場 所 ながはま文化福祉プラザ1階1C会議室  
III 出席者 森川会長、川瀬委員、板山委員、中山委員、大橋委員、國友委員 計6名  
(西川副会長、東委員欠席)

### IV 内 容

#### 《議 事》

#### 2(1) 市民協働事業について

- ・ 前回(第6回)の会議で配付した資料3(p.21-p.34)に基づき、市民協働事業について市民活躍課から説明
- ・ 市民活動団体支援事業補助金(当日配付資料)について補足説明

#### 【意見等】

##### <行政の関わり方等>

- ・ 忙しい中で、市の職員がどのように関わるか
- ・ 行政サイドがこれにどのように取り組んでいくのか、職員の勤務時間も含めて組み立ててもらうことが大事
- ・ 行政サイドが、積極的に協働を担うという意識を持たないと、名ばかりの協働になってしまう
- ・ 行政職員は事務分掌に縛られるので、職務の10%は市民協働の事業に携わることを事務分掌に入れるとか、人事評価に反映させるとか、踏み込まないと何も変わらないと思う
- ・ 行政提案型の市民協働事業については、市の課題を上手に説明してくれないと、解決方法の提案のしようがないので、市の職員の、課題を定義する力や仕様書を作る能力を高める必要がある

##### <市民協働事業における市民の定義・提案条件>

- ・ 社会課題の解決に対する利益は市民が享受するので、提案・実施主体が市内であるか県外であるかは問題ではない
- ・ 長浜一東京リレーションズのように、関係人口的に市外に住んでいるけど、長浜市に深く関わってくれる人もおり、事業による恩恵が市であるならば関係人口でも良い
- ・ 提案者の1人は長浜市の住人であるという条件も必要かもしれない
- ・ 課題が長浜市に関したものであるなら、提案者の間口は広げておいた方が良いと思うが、どこを選ぶかは、独立性を担保した委員会ですっかり審査をする必要がある

##### <予算上の配慮>

- ・ 支援対象経費から、収入を控除してしまうと、稼ごうというモチベーションがなくなって

しまうので、控除すべきでない

- ・複数年度の事業の場合、効果的な使い方ができるよう、予算を繰り越せるようにしてほしい
- ・複数年にまたがる事業の場合、予算の担保がないと提案者もやりにくいので、債務負担行為や継続費など、予算措置の工夫を検討してほしい

#### <審査会>

- ・審査機関は、独立性を担保することをきちっと定める必要がある
- ・第3者機関にするなら、利害関係がない人を構成メンバーにすることが基本となり、特に提案主体が多様であるほど、審査委員の選任が難しいが、公平性、公正性の観点からそこを押さえないといけない

#### <制度分類>

- ・市民でしかわからない目線でアイデアが出ることもあるし、行政がずっと長年抱えてきた課題として上がってくるものもあると思うので、厚木市のように市民提案型と行政提案型の2つに区分されている方がよい
- ・イベントは単発になりがちなので、地域の課題解決を考えると、イベントを採用する場合は、継続性があるかどうかを条件にすべき
- ・行政提案型は、行政として何を困っているのかきちっと明示すべき
- ・行政提案型は、テーマをあげてもらえる方が、市民から提案しやすい

#### <手順>

- ・岡山市のような事前協議の場があった方がよい
- ・提案者がいきなり担当課と協議をすることはハードルが高いので、コーディネートしてもらえる組織やコーディネーターが必要

#### <全般>

- ・事業費の9割程度を市が負担する自治体が多いが、ある程度の市の負担は必要
- ・複数年度の事業の場合は、どこかで検証をする必要がある
- ・市民サイドに魅力のある行政提案でないと、提案する団体が少なくなる
- ・市の総合計画にChallenge&Creationが掲げられているが、若い人が乗ってくるように、先進性や先駆性など、未来に向かうことができる楽しさも入れて欲しい

### 3 その他

- ・答申に向けたスケジュールについて
  - ⇒ 森川会長と答申案に対する事前調整を12/16(月)までさせていただいたうえで、委員に答申案を12/18(水)に送付するので、12/23(月)までに意見をいただきたい
  - ⇒ 各委員からいただいた意見を反映した答申案を12/25(水)の第8回会議で審議していただく

⇒ 答申書については、1/9(木)に森川会長から市長に提出いただく

#### 4 閉会

・閉会にあたっての部長あいさつ

⇒ さざなみタウンは、いろいろなご意見を頂戴し、建設まで6年がかかった。しかし、一日平均1,800人という想定外にたくさんの方に来ていただいている。まちづくりセンターには今までの4倍の方が来られ、うれしい悲鳴をあげている。先日のコミュニティカレッジでは、非常にたくさんの方が楽しんでまちづくりに近づいていただいた気がする。いろいろな思いがけない効果が出てきているが、これをさらに続けていくために、まちづくりは楽しいと感じてもらえるような計画にしたいと思っているので、よろしく願いしたい。